

霧島山

新燃岳

火山活動評価：静穏な状況(レベル1)

12月3日に火山性地震が多発しましたが、徐々に減少し、火山活動は静穏な状態となりました。

1月9日に火山活動度レベルを2から1に引き下げました。

概況

- 地震、微動活動(表1、図2、図6)

火山性地震は、12月3日の多発以降やや多い状態となっていました。1月は少ない状態で経過しました。地震の震源の多くは新燃岳付近の浅いところに分布しています。なお、火山性微動は観測されませんでした。

- 噴煙活動

監視カメラでは火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

- 地殻変動(図3、図4)

GPSによる連続観測では、長期的に見ると、新燃岳が南東側に膨らむ傾向が観測されています。

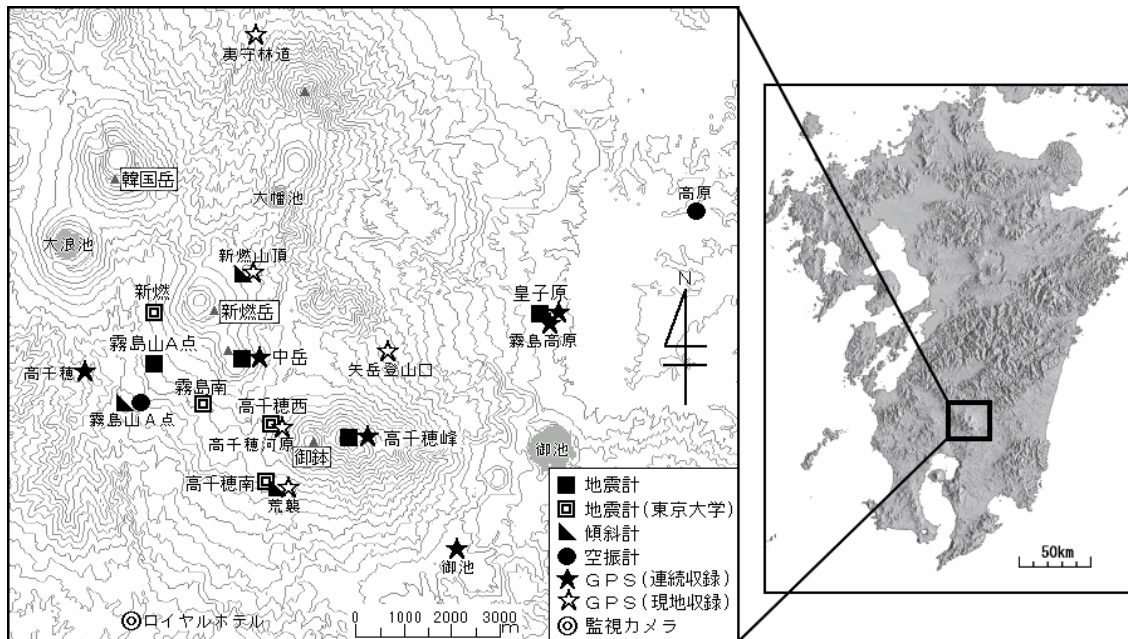


図1 広域観測点位置図

この資料は気象庁の他、東京大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)25000分の1の地形図を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

表 1 地震・微動回数(2006 年 2 月~2007 年 1 月)

2006~2007 年	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
地震回数	275	210	53	37	18	9	3	16	6	8	179	52
微動回数	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

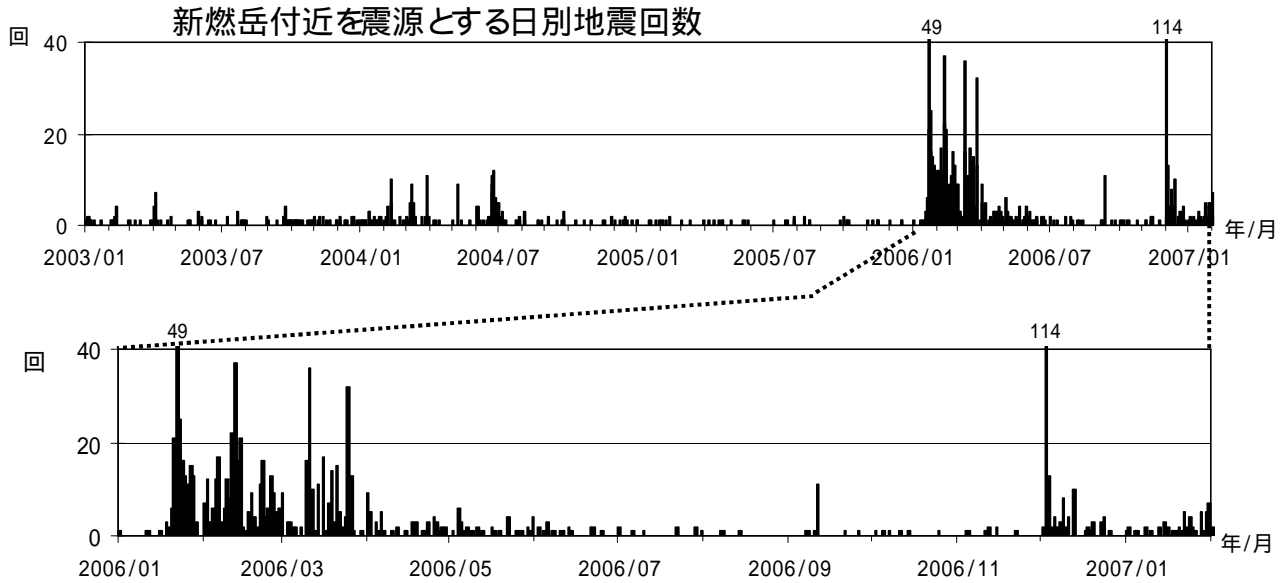


図 2 火山活動経過図(2003 年 1 月~2007 年 1 月)

- ・ 1 月の火山性地震の回数は 52 回と 12 月よりも減少し、火山活動は静穏な状態となっています。
- ・ 火山性微動は発生していません。

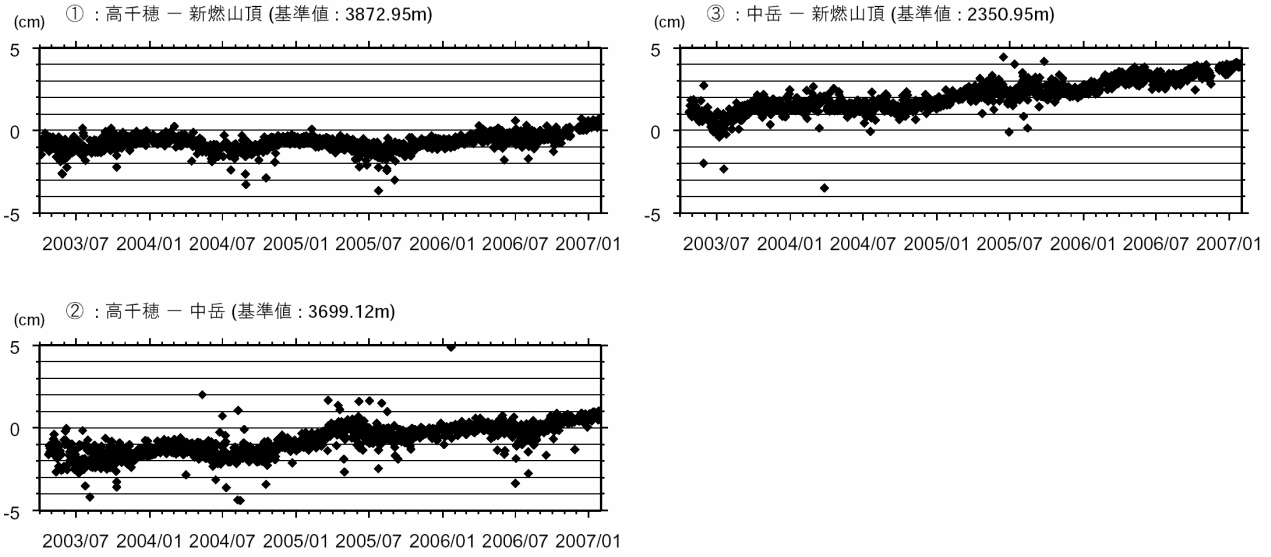


図3 GPSによる基線長変化(2003年4月~2007年1月)

・長期的に見ると高千穂-中岳、中岳-新燃山頂間で伸びの傾向が見られます。

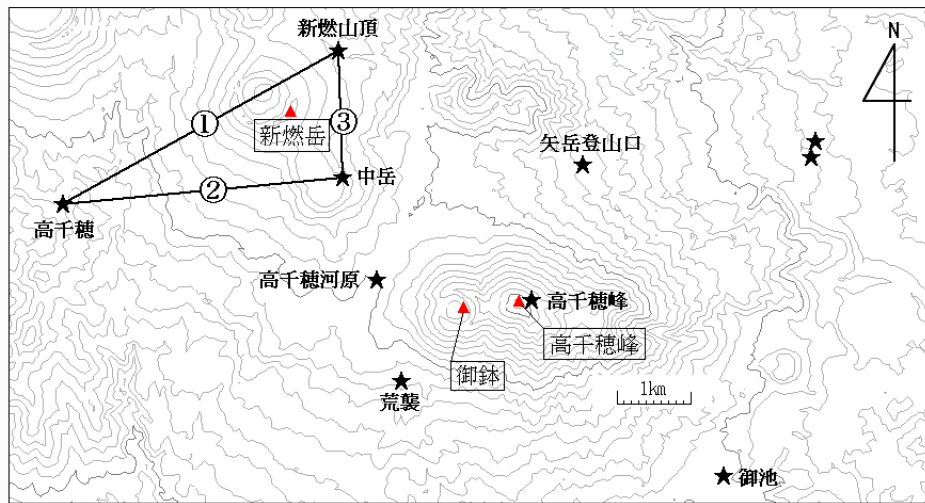


図4 GPS連続観測基線図

・新燃岳を囲んだ3観測点の基線による観測を行っています。
この基線は図3の ~ に対応しています。

御鉢

火山活動評価：静穏な状況(レベル1)

火山活動に変化はなく、静穏に経過しました。

現在の火山活動度レベルは1です。平成18年5月22日以降、レベル1が継続しています。

概況

- 地震、微動活動(表2、図5、図6)
火山性地震は少ない状態でした。振幅の小さな火山性微動が12回観測されましたが、活動に変化は見られませんでした。
- 噴気活動(図5)
監視カメラでは火口縁を超える噴気は観測されませんでした。
- 地殻変動(図7、図8)
GPS連続観測による地殻変動観測では、長期的には高千穂峰や中岳の観測点がわずかに南東に動く傾向が観測されています。

表2 最近1年間の地震・微動回数(2006年2月~2007年1月)

2006~2007年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
地震回数	5	3	4	8	16	16	8	7	6	5	9	10
微動回数	10	6	2	2	3	0	0	0	0	0	1	12

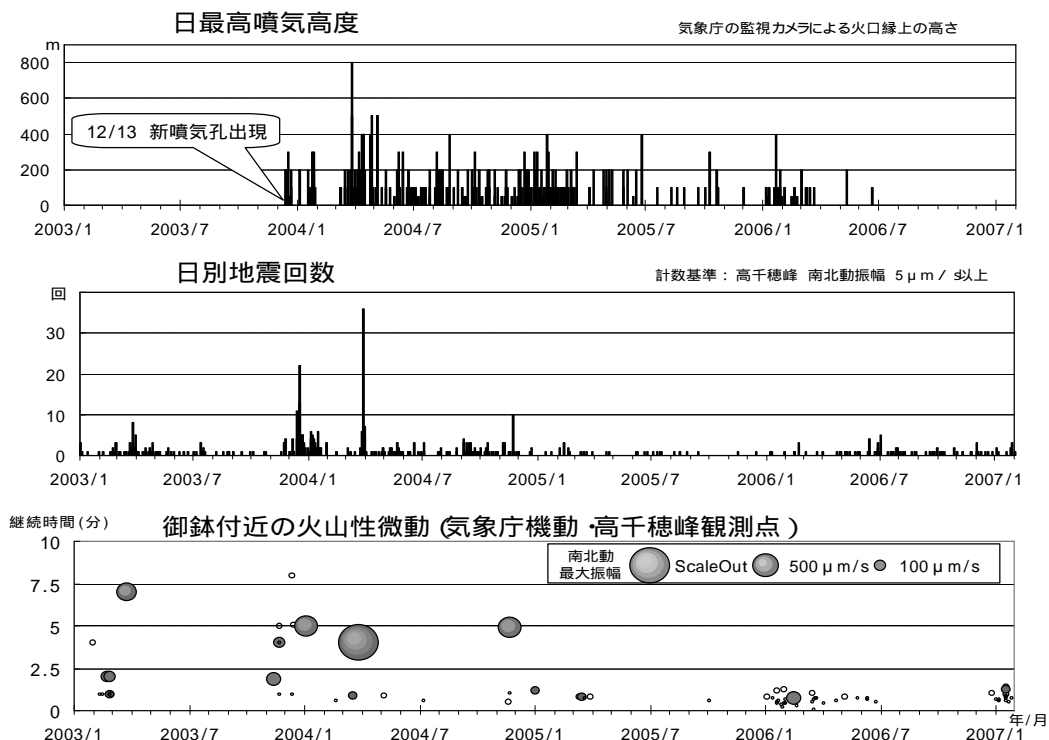


図5 火山活動経過図(2003年1月~2007年1月)

- 監視カメラでは、火口縁を超える噴気は観測されませんでした。
- 火山性地震は少なく、静穏に経過しています。
- 火山性微動を12回観測しました。

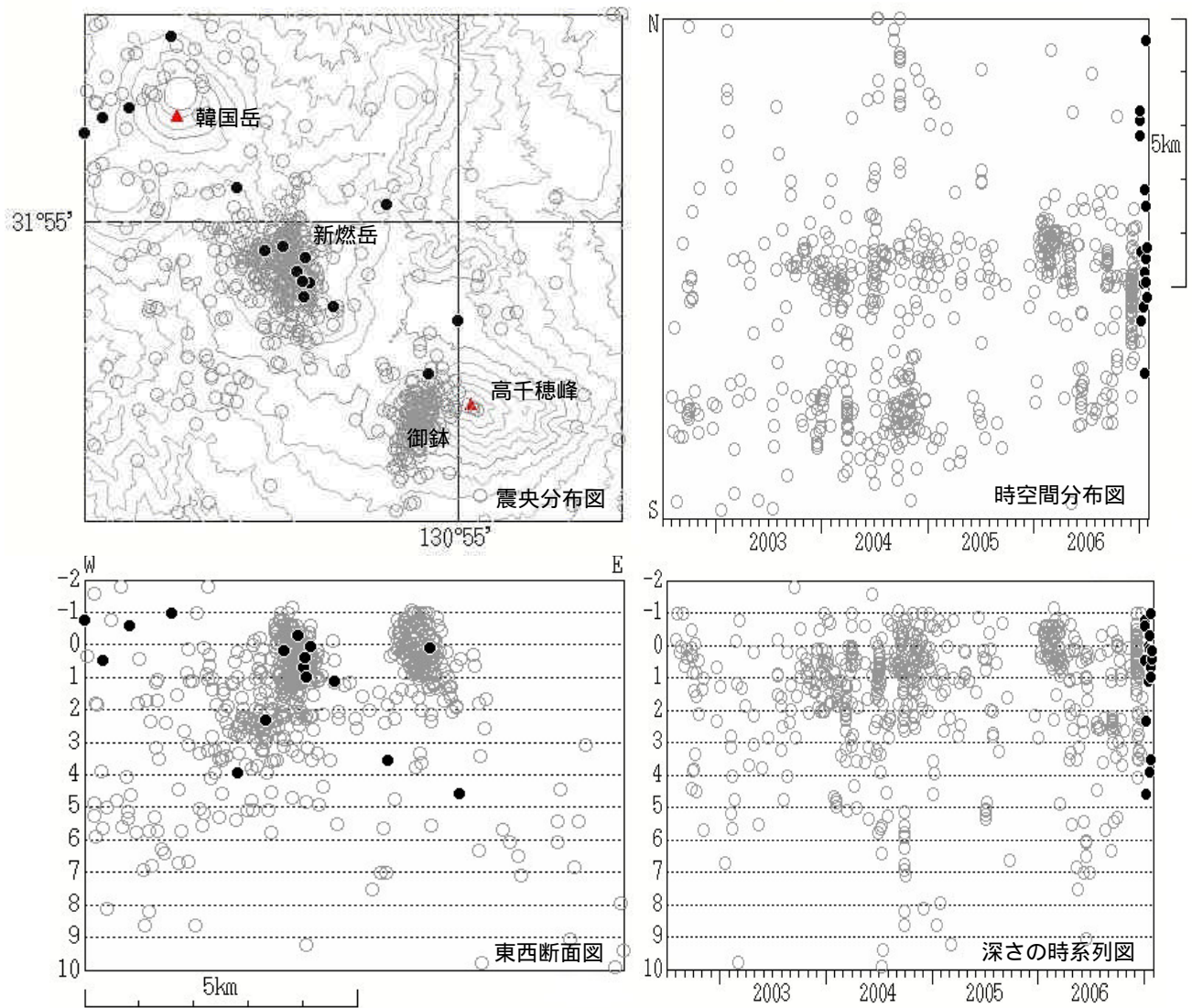


図6 震源分布図(2002年7月~2007年1月)

- ・ 今期間の震源は黒丸で表示しています。
- ・ 御鉢付近で発生した地震の震源は2個求まりました。
- ・ 新燃岳付近を震源とする地震はこれまでと同様にやや浅い所に分布しています。

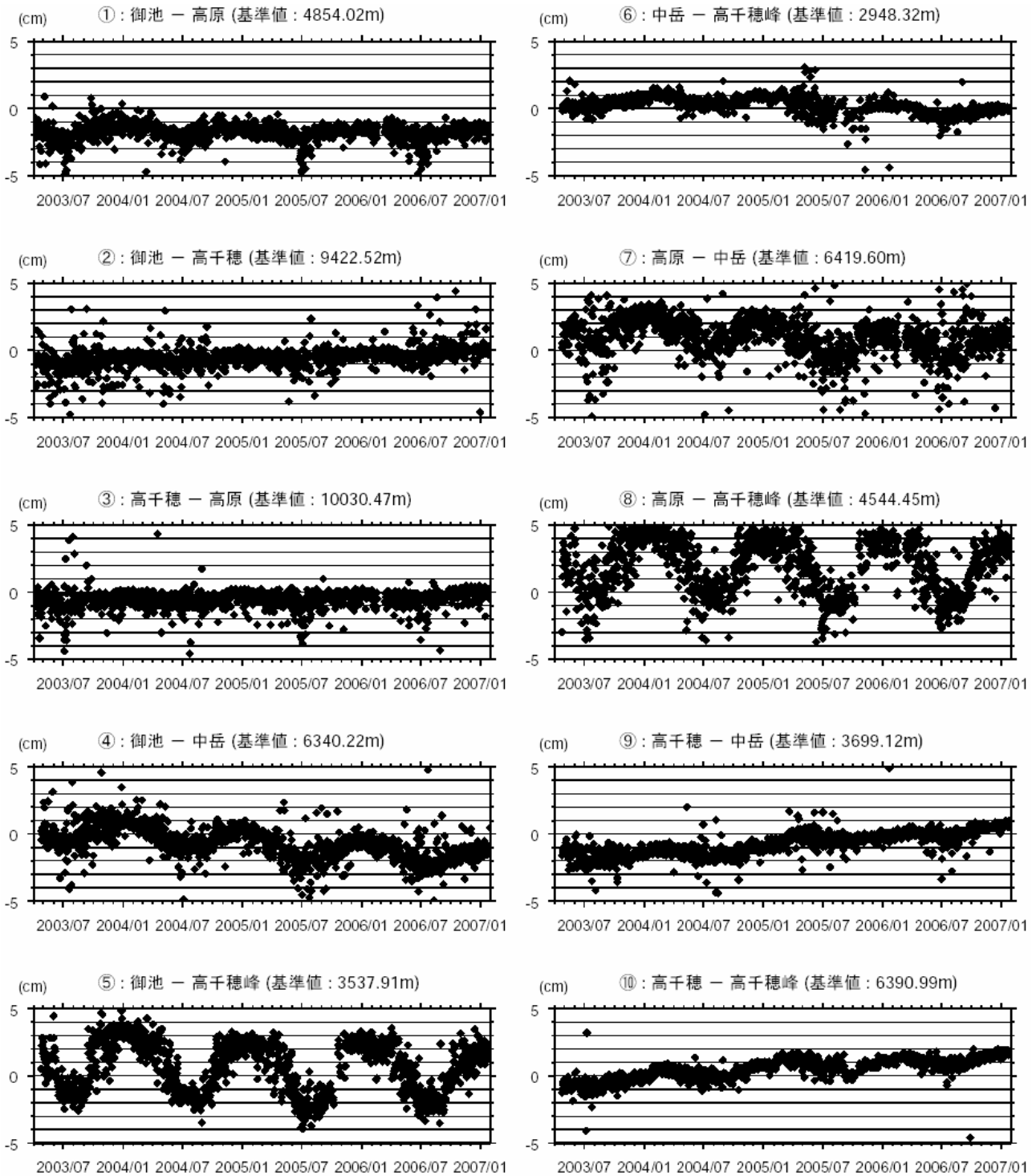


図7 GPSによる基線長変化(2003年4月~2007年1月)

- ・ 長期的には、中岳や高千穂峰の観測点がわずかに南東に動く傾向が観測されています。
- ・ 短期の大きな変動は季節変化によるものです。これは観測点間の標高差が大きいほど顕著に現れます。

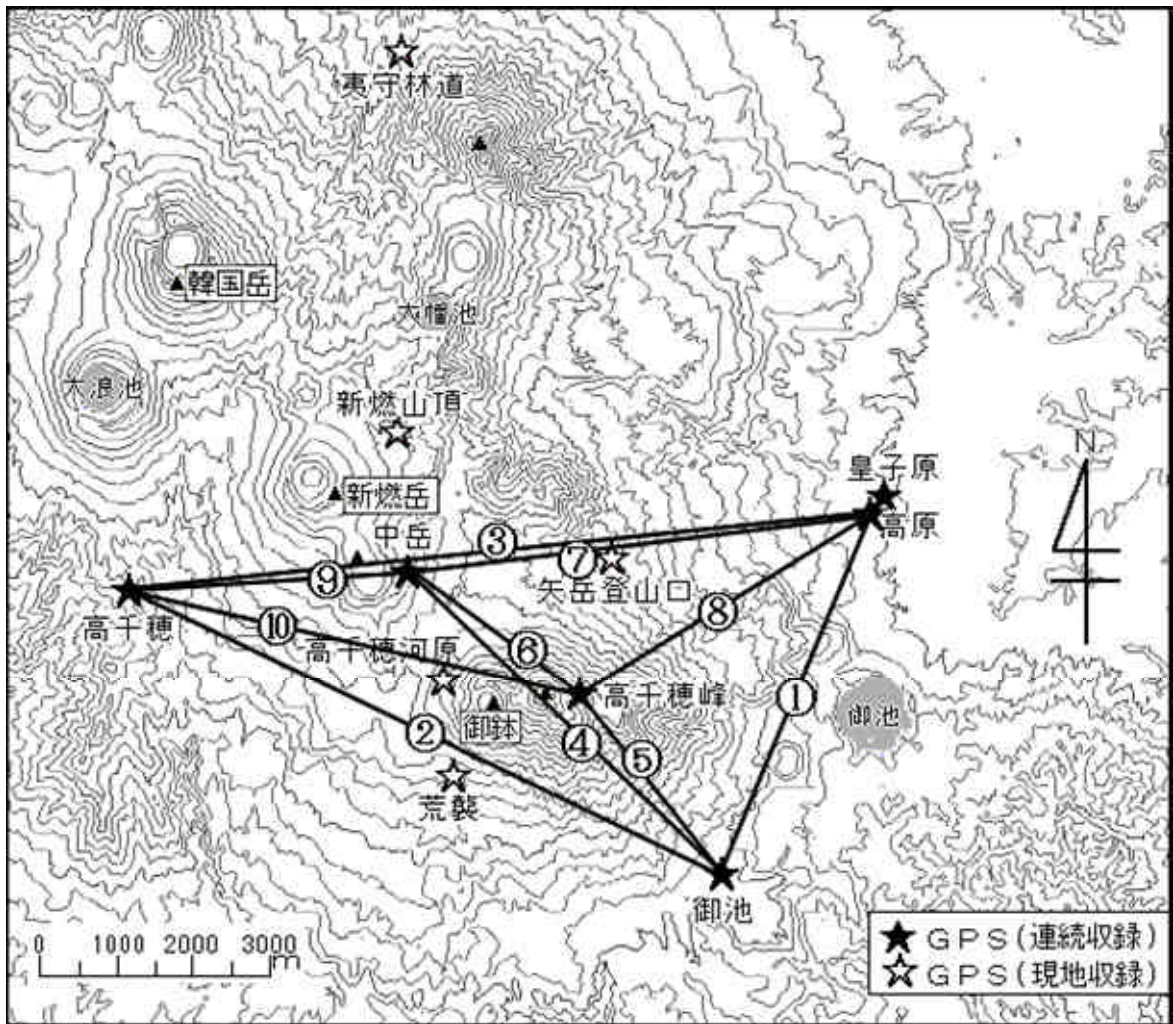


図8 GPS連続観測基線図